

## 南海トラフ海底地震津波観測網の構築による災害の早期検知

**概要**：高知県沖～日向灘に海底地震津波観測網(N-net)を構築中。令和6年8月8日の地震発生時に観測した地震・津波データが政府の地震評価に活用。今後、地震・津波の早期検知等による被害軽減に期待。

**対策名**：120 地震津波火山観測網に関する対策<5か年加速化対策>【文部科学省】

- **実施主体**：国立研究開発法人防災科学技術研究所
- **実施場所**：高知県沖～日向灘の海域
- **事業概要**：リアルタイムの観測データを気象庁等へ提供し、災害の早期検知や迅速な情報発信に貢献するため、空白域となっていたエリアに南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)を構築し、令和6年7月1日より沖合システムの試験運用を開始した。(観測網全体の本格運用は令和7年度開始予定)
- **事業費**：175億円 ※運用経費は含まない

主な事業	実施内容	事業費	実施期間
南海トラフ海底地震津波観測網の構築・運用	海底地震津波観測網の構築・運用	175億円	R1～R7
うち3か年緊急対策	海洋調査・設計、システム開発・検証等	76億円	R1～R2
うち5か年加速化対策	観測機器の製作、海洋敷設工事等	74億円	R3～R7

- **効果**：
  - 令和6年8月8日に日向灘を震源とする地震(最大震度6弱)が発生。試験運用中のN-netの沖合システムで観測した地震・津波のデータが、政府の地震調査研究推進本部における地震の評価に早速活用された。
  - N-netの整備により、地震動を最大20秒程度、津波を最大20分程度早く直接検知可能となり、国民への迅速な情報周知により地震や津波から身を守るための時間が長くなることが期待される。

